



関中央ロータリークラブ

2017-2018 WEEKLY REPORT

例会日 毎週木曜日 18時30分

例会場 関観光ホテル（関市池尻91-2）

事務局 関市西本郷通5-2-53 TEL(0575)24-7332 FAX(0575)23-5278

会長 波多野 好文 **副会長** 佐藤 忍 **幹事** 長谷川 修 **クラブ会報委員長** 大藪 太

2017～2018年度国際ロータリー

イアン H.S. ライズリー会長



2017～2018年度関中央ロータリークラブ会長テーマ

「親睦からのロータリー」

本日のプログラム 第1930回例会 2018年2月15日（木）

会員卓話 吉田 和也 会員

テーマ 「リトアニアボランティアの報告」 / 担当 インターアクト委員会

前例会の記録

第1929回 2018年2月8日（木）

卓話 関市役所 市長公室長 山下 清司様

テーマ 「さんやほう 20周年」

／担当 ロータリー情報委員会

*ロータリーソング「我等の生業」斉唱

*創作音楽劇「海波の音」のご案内

*お客様の紹介

関市役所 市長公室長 山下 清司様

*会長あいさつ 波多野好文会長

皆さんこんばんは、今日はコンビニの話をしようと思います。皆さんはコンビニにはよく行かれますか。私はよく行くとは言えませんが、大体1週間1回ぐらいいは行きます。大抵は、昼食の弁当を買いに行くか、宅配便で送られたもののお金を払いに行きます。24時間営業で大変便利です。そういえば最近サークルKが改装してファミリーマートになっていくのをよく見ますが、合併したようで、サークルK及びサンクスはすべて遅かれ早



かれファミリーマートになるそうです。そのコンビニですが、2017年のランキングでみると、店舗数の一番多いのは、セブンイレブンで19,044軒、次にファミリーマートで18,240軒、続いてローソンで12,557軒です。この3つが圧倒的に多く3大コンビニと言われていています。ちなみに、4位はミニストップで2,227軒、5位がデイリーヤマザキで1,464軒とかなり離されています。ただし、岐阜県では1位がファミリーマート、2位がセブンイレブン、3位がローソンの順です。セブンイレブンは東北・関東・甲信越・山陽・九州で店舗数が多く、ファミリーマートは東海北陸、ローソンは関西・山陰・四国で店舗数が多く、地域別にきっちり分かれています。ちなみに北海道はセイコーマートが一番多いそうです。2017年12月の全店ベースの売上は前年度同期比を1.9%上回る9,255億5,300万円で前年同期を上回るのは50か月連続となるそうですが、2017年の倒産数は前年比24.39%増の51件、倒産数が50件を超えるのは12年ぶりで、過去最多だった2003年の53件に次いで2番目です。又、2017年の休廃業・解散は155

件で倒産と休廃業・解散を合わせた数は 11.35% 増の 206 件となり、初めて 200 件を超えました。そういえば肥田瀬でもコンビニがやめて貸店舗の看板が出ているのを見ました。倒産か廃業かはよくわかりませんが、経営も楽ではないようです。

ロータリーの話に戻りますが、先日のアンケートの結果の続きですが、このアンケートは 1 月 20 日の会員増強セミナーに先立って、会長・幹事・増強委員長に 12 月に行われました。岐阜県・三重県別に行われ、有効回収率は 109 人 (97%) でした。会員増強は必要ですかの問いに対して、岐阜県 97.3%、三重県 96.7%の方が必要だと答えています。その中で先日紹介できなかった質問で、今ロータリーは楽しいですかの問いに対して、岐阜県 82.2%、三重県 92%が楽しいと答えています。逆に楽しくないと答えた方は岐阜県 9.34% 三重県 4.76%でわずかです。最後の質問の、ロータリーは皆様の人生に素晴らしい影響を与えてくれていますか。に対しては岐阜県 87.1%、三重県 93%の人がはいと答えています。こんな素晴らしいロータリーに入会されたことを、皆様誇りを持って下さい。又新入会員の入会にもご協力をお願いします。

*卓 話

関市役所

市長公室長 山下 清司様

テーマ 「さんやほう 20周年」



貴重な機会をいただいたので、関市の最も重要な「総合計画」とそれに関連する「行政組織改正について」、少しご説明をさせていただきます。市には様々な計画がありますが、その最上位計画となる「関市第 5 次総合計画」を皆様方の声もお聞きしながら策定し、平成 30 年度からの 10 年を計画期間としてスタートします。「人」「まち」「暮らし」をまちづくりの視点として、将来都市像である「産業」を鍛え、「学び」を伸ばし、「文化」を磨き、未来を切り拓く「協働」のまちの実現に向け、市民の皆さんと協働でまちづくりを進めることとしています。今回の行政組織改正は、この総合計画基本構想に基づく政策、施策、事業を効率的かつ効果的に、また着実に遂行するとともに、限られた資源

を選択と集中により有効に活用し、質の高い行政サービスを提供するために整備するもので、この 4 月 1 日から実施します。

組織改正のポイントでございますが、

1 つ目は、市民に分かりやすい組織とすること。市が進もうとする方向、つまり「第 5 次総合計画」を実行するための手段としての組織であることが市民の皆さんや他の機関に伝わること。

2 つ目は、市が直面する行政課題等に対して、的確かつ速やかに対応できる組織とすること。全体では、これまで 11 の室部局が▲1 で 10 となり、課は 39 課から▲2 で 37 課となります。

最も特徴的な事は教育委員会にあった、生涯学習課、文化課、スポーツ推進課の三課が市長部局の「協働推進部」に移管することです。

議会の中では、市長に権限が集中し、中立性が懸念されるとの意見もありましたが、少子高齢化の中で、文化やスポーツもその担い手が少なくなっている。そこで、一部の人で行うのではなく、多くの人の関われる機会を創り、当に市民協働の手法で文化を継承し、スポーツを盛り上げ、そして市の活力を高めていこうとするものです。

従って教育委員会は、小・中学校及び、関商工高等学校に関する事に特化することとなります。

これだけの機構改革は、私が在職した中では初めてです。市長及び市役所の意気込みの表れであるご理解いただきたい。しかし、まちづくりは市役所が踊っていても実現しないので、市民の皆さんも一緒になって住みよい関市にしていきたいと思います。

○さんやほうについて

1. 概要

私は関市の水田で、“関市の品種”を“無農薬で化学肥料を使わない”米作りにこだわり、関市の地酒ともいえる、特別純米酒「さんやほう」を仕込むための米をつくる「さんやほうサポーター」を主宰しています。

収穫量は 29 年は 10a あたり 415kg、6.9 俵を収穫することができました。(28年 418kg 7俵)

※小坂酒造への出荷量 玄米 40 俵+14 俵=54 俵

清酒 4,320 升 (80 本/俵)

2. ルーツ

活動のルーツは、関市が農業・農村活性化農業構造改善事業の取り組みとして、異業種の交流を目的で平成5年1月に発足した「関市21世紀まちづくり塾」にあります。塾の活動は、農家や会社員などの塾生が遊び心で色んな楽しい事業を企画し実践するもので、その一つとして「米に親しむふれあい農園」を平成6年にスタートしました。「米に親しむふれあい農園」では、牛フンたい肥の基肥えや除草剤を使わないで“紙マルチ”を水田に敷き詰める農法を取り入れ、市民の皆さんに“田植え”と“稲刈り”体験はもちろん、夏休みには“青空教室”を開催し、稲の生長や、田んぼの生き物について現地で勉強し、子どもたちも大変楽しんでいました。

3. お酒の誕生

「みのにしき」で楽しく米づくりする中、米づくり4年目の平成9年に参加している塾生から、「自分たちで作ったこだわりのお米でお酒が出来ないだろうか？」という声があがりました。造り酒屋さんを探すが、残念な事に関市にはなく、ご縁があって美濃市の小坂酒造さんに巡り合うことができ、試験的に私たちの米でお酒が出来ることになりました。平成10年1月には、まちに待ったお米を味わう時がきました。「辛口」だの「甘口」だの素人には利き酒をしてもよくわからなかったのですが、小坂酒造さんのお骨折りで美味しい酒になったため、これは命名して関市の特産として続けようということになり、つけた名前が「さんやほう」です。

この「さんやほう」は関市倉知地域（ショッピングセンターマーゴ付近）で受け継がれている「倉知まつり」の掛け声で“山”と“野”が“豊”と書くので、私たちの思いと一致したので使わせていただきました。平成13年で市の事業としてのまちづくり塾活動は終了しましたが、塾生の有志で“さんやほう”づくりを続けようと、サポーターを募り事業継続してきました。

4. みのにしき

こだわりの一つ「みのにしき」について紹介をさせていただきます。通常水稻の品種改良は県の試験場などの設備が整った機関で行われるのですが、小瀬

鵜飼で知られる関市小瀬にお住まいの尾関二郎さんは、倒伏に弱く晩稲の岐阜県の銘柄米「ハツシモ」を作りやすくできないか？関市にあった品種にできないか？と一農家という恵まれない育種環境にも関わらず、試行錯誤を積み重ねられ、ニホンマサリと交配して1983年（昭和58年）に個人で生み出した貴重な品種です。1987年（平成62年）岐阜県奨励品種に指定、現在では関市を中心に370ha程が栽培されています。こうした実績が評価され2006年（平成18年）に個人で全国初の県奨励品種の育成が評価され、研究開発功績者表彰で農林水産大臣賞を受賞されています。尾関さんは、この他にも様々な賞を受賞されており、毎日農業省記録賞（平成元年）、大日本農会表彰（平成9年）、農林水産省「農業技術の匠」の選定（平成22年）なども受賞されています。こうして育種に情熱を注がれた関市の篤農家、尾関さんに敬意を表するとともに、尾関さんが苦勞の末に生み出した関市の土地にあった品種「みのにしき」を知ってもらい、大切にしていきたいということがこだわりの一つです。

5. 倉知まつり

「倉知まつり」は、江戸時代の初期の村の領主、村瀬平四郎が領民たちへの功績が高かったため供養を兼ねて五穀豊穰を願って始まった祭りで、上の白山神社と下の鞍知神社からそれぞれ担ぎ出した神輿を祭り場で押し合い、せり上げ、倒しこむという勇壮な祭りで、けんか祭りとも言われていました。けが人も出るということで、現在は神輿のせり合いは行われていませんが、担ぎ出す様子は見ることができます。そんな祭りの掛け声である「さんやほう」とともに伝統行事も受け継いでもらえばと思っています。

6. サポーター制度

さんやほうサポーター事業を紹介させていただきます。5月の肥料散布から始まり、6月の田植え、田植え後の米ぬか散布、炎天下7月の草刈り、8月生き物調査、10月稲刈り、12月に酒づくりの洗米体験、3月の新酒の試飲と配布といった具合で盛りだくさんです。会の経費は参加者の1500円の会費とお米の売り上げだけで行っています。サポーターとしての特

権は市販されていない“さんやほう”の原酒や生酒を会員価格で購入できること。しかも作業の参加に応じてポイント付加し、ポイントに応じて購入本数が変わるといことです。そして何よりも、自分が汗して作った米が酒で味わえるとともに、お友達などへ心のこもった贈り物ができるのではないのでしょうか？サポーターは、20年前は核となるメンバー5人程を中心に毎年公募して、市内はもとより市外、県外から色んな方が参加していただき、今年度は全部で35名の参加でした。お陰さまで、ロコミで友達を広げてくださる方もあって、名古屋や遠くは神奈川県川崎市から参加してくださるご夫婦もあり、田植えや稲刈りに来ていただいています。

7. 除草対策

こだわりの3つ目は農薬を使わない事です。田んぼには雑草が生えますが、除草剤の代わりに「米ぬか」を散布します。散布は田植えから3日後に10aに約260キロ(15kg×17袋)を手で散布します。一袋約15キロの袋を片手で抱え、ぬかで真っ白になりながら、まだ柔らかい田んぼの中で苗を踏まないように気をつけて歩いて散布します。短い時間ですがこれは少し厄介な作業です。米ぬかを散布してしばらくは、ぬかの臭いが田んぼの周りでしますが、その後1カ月もすると落ち着きます。昨年は約4反を増やし、除草に米ぬかを使わず田植え機の後ろにチェーンを縄のれんのように垂らした器具を作成して、田植えから一週間後に田植え機で田んぼの中を引っ張ったり、代かきは間を開けて3回したりと、試行錯誤をしました。それだけやっても、草は生えます。そこでサポーターは手で2回抜き取ります。田の草取りは追いつかないので、来年の草を少しでも減らすため、せめてヒエの穂だけでも切り取ろうと、できる範囲で切り取っています。炎天下での除草作業は難儀ですが、これがあるから稲に対する愛着や思いが湧いてきていると持っています。

肥料：基肥 60kg/10a (田植え時)

追肥：35kg/10a

8. 地域とのかかわり

米作りは、サポーターだけではなく、地元のPTA、青少年健全育成協議会にご協力を頂き、子どもたち

に呼びかけて、農業体験として「田植え」「稲刈り」を体験して貰うとともに、夏休みには「生き物調査」も行っています。

9. 生き物調査

農薬を使っていない田んぼには雑草も生えますが、水生昆虫など生き物が豊富で、ツバメが私たちの田んぼの上を巡回している様子がよく見られるので平成21年から「生き物観察」も行っています。貴重なタガメ、コオイムシなど珍しい昆虫やカエルなど、色んな生き物が捕まりますが、それらを昆虫などに詳しいサポーターの先生に、その種類を特定していただき勉強します。毎年、子どもたちは興味深々で眺めています。

10. 洗米体験

獲れたお米を小坂酒造さんに買っていただき、寒い時期に仕込んでいただきます。小坂酒造場の建物は国の指定重要文化財になっており、うだつの上がる美濃の町にあって重厚感あるうだつは、造り酒屋として当時の繁栄を感じる歴史ある佇まいです。酒づくりの過程を何か体験させていただきたいと、平成22年から蔵元や杜氏さんのご理解で「洗米作業」を体験させていただいています。酒づくりの過程のなかで「洗米作業」は単純そうですが、取り返しのつかない大変重要な作業です。杜氏さんの指導のもとで米を洗い、丸く精米された米に水が浸る具合を、厳密に時間を見ながら洗う作業は、緊張する貴重な経験です。

11. 試飲

私たちの一番の楽しみである新酒の試飲。毎年3月上旬に小坂酒造場へ出かけ、一般の方の蔵開放とは別に試飲をさせていただき、優越感を味わえる時です。蔵開放も今でこそ当たり前ですが、始めた20年前はまだあまり行われておらず新鮮な行事でした。こんな活動も今年は20年目ですが、10年前に10周年の感謝をこめて記念事業を検討しました。その結果、我々の活動の応援ソング「さんやほう」を作ろうということで、関西を中心に活動するシンガーソングライターのリピート山中さんに作詞作曲をしていただきました。そして10周年記念でリピート山中コンサートを開き、歌を披露しました。その後もリ

ピートさんには農作業や蔵開きに来ていただき、ミニコンサートでさんやほうの歌を歌っていただいています。

12. 酒の評価

“さんやほう”は小坂酒造場さんや関係する卸業者さんのお骨折りでじわじわと定着し、現在、関市内はもちろん近隣の市のスーパー、酒屋、コンビニなど30店舗ほどで取り扱っていただいています。また、関市内では洋菓子屋さんが夏期限定の“さんやほう”ゼリー、バレンタインデー限定のさんやほう入りチョコなどを製造販売していただいていたたり、飲食店でも関市の地酒として出していただいていることも嬉しい成果です。さらに純米酒としての評価が高まり、平成22年、23年と2年連続で名古屋国税局鑑評会、純米酒部門で優等賞に選ばれており、杜氏さんたちの努力に感謝しています。

私たちの活動はささやかなものですが、地道に継続してきたことでみなさんにも評価して頂けるようになったことは何よりうれしいことです。“さんやほう”にはいろいろなこだわりと誇りが詰まっています。これからも多くの人たちに愛され、飲まれるようこの活動を継続していきたいと考えています。

皆さんも趣旨に賛同してサポーターに参加していただいたり、酒をお買い求めいただくなど応援していただける事を期待して発表を終わります。

*出席委員会

会員数31名、本日の出席26名です。

*ニコボックス委員会

・会長・副会長・幹事

市長公室長 山下清司様 さんやほう20周年の歴史について卓話をよろしくお願ひします。

・波多野源司君

本日は大変お忙しい中ご苦勞様です。本日の卓話よろしくお願ひします。

・小澤重忠君

市長公室長 山下様のご来場を歓迎して。お酒のお話拝聴楽しみにしております。

・小川糧司君

お久しぶりです。

・尾崎将之君

久しぶりに参加させていただきます。

26名のご投函ありがとうございました。

*幹事報告

・2月のロータリーレートは1ドル110円です。

<次例会の案内>

第1931回 2018年3月1日(木)

卓話 岐阜県文化財保護協会理事

〃 関支部長 後藤 章様

テーマ 「織田信長の東美濃攻略」

担当：雑誌・広報委員会